

MIS002-P02

会場:コンベンションホール

時間: 5月25日17:15-18:45

沿岸低地堆積物中に記録された過去の津波/高潮の痕跡－渥美半島太平洋岸の例－

Traces of tsunamis/storms in coastal lowland, the Pacific coast of Atsumi Peninsula, central Japan

阿部 朋弥^{1*}, 白井 正明², 村岸 純²

Tomoya Abe^{1*}, Masaaki Shirai², Jun Muragishi²

¹名古屋大学大学院, ²首都大学東京大学院

¹Nagoya University, ²Tokyo Metropolitan University

津波堆積物や高潮堆積物など災害イベントの研究は、過去の災害イベントの特徴および再来周期を明らかにできる可能性があり、多くの研究者によって報告がされている。

愛知県渥美半島太平洋岸は、これまでに東海地震や東南海地震による津波や、台風による高潮によって、度重なる被害を受けてきた。

本研究では、この地域の沿岸低地において、数本のコア試料を採取した。これらの試料について、剥ぎ取り断面の観察により砂層を認定し、いくつかの砂層の粒度分布と石英粒子の円磨度測定を行い、周辺の海浜や河川の堆積物と比較した。また砂層を挟むシルト質堆積物中の鉛同位体 (Pb-210)、セシウム同位体 (Cs-137) 濃度を測定し、砂層の形成年代を見積もった。砂層と過去の津波や高潮災害との対比を行うために、歴史資料の収集も実施した。

これらのコアからは耕作土直下から深さ1 m程度まで数枚の砂層が見出された。石英粒子の円磨度解析から、いくつかの砂層は海浜砂と河川砂が混合したもの、すなわち海域からの水流が河道を遡り堆積させたものと判断される。また一部には津波堆積物でよく報告されている砂層と泥層の繰り返しを観察された。また歴史記録との対比の結果、江戸時代の安政東海地震 (1854) と宝永地震 (1707) に伴う津波によって形成された可能性がある砂層が見出された。

キーワード: 津波堆積物, 渥美半島

Keywords: tsunami deposits, Atsumi Peninsula